

「あゝ、南無阿彌陀佛、定よ遅うに御苦勞ぢや。オ、〳〵何處さんや知らんが、豪う賑やかに騒いでなさる。泣きの涙の此方に引き替え、何ぞお芽出度でも有ると見えるな。」

「親旦那さん、あれは宅でムりまつせ。」

「何を云ふぞい。なんで宅が……あんな……え、ツ。お、。ほんに、ほんに宅ぢや……え、もウ何を仕腐るやら……(ドンドン〳〵〳〵)これ開けんか(ドン〳〵〳〵)」

(へ渡るに怖し渡らねば……)

「ふわーい。コラ〳〵〳〵。……叱ツ、チョツ、チョツと待ち。誰や表叩いてるで。」

「これ開けんかちウのに……(ドン〳〵〳〵)」

「うわツ。親旦那やツ。」

「何ツ。親爺やツ。さあ甚い騒動やがナ。オイ誰やこんな大層らしい燭臺出したりするのは。」

「貴方が出せ〳〵云ひなはつたんや。」

「お前に遣るさかい喰ふて仕舞ひ。」

「うだ〳〵云ひなはん。アツ。もし。そんな無茶な。……背中へ燭臺突込んだりして。アツ……うつ向かれへん……。」

「熱い〳〵ツ。誰やわいの股倉へ鍋かくすのは……無茶苦茶やがナ。……オイ〳〵そんな七輪を押入

れの中へ入れたら危いがナ……。」

「チョツと、妾いまアどないしまよ。」

「左様や、菊江、お前を第一にかくさんならん。チョツと此方へおいで〳〵。さア此方の間へ這入つてナ。是れが佛壇や。大きい依て一人位樂に入れる。え、か、此處に暫くかくれて、や、ぢぎに出しに来る。」

「コレ、何してるのぢや。早う開けんか(ドン〳〵〳〵)」

「へい〳〵只今。……おい皆竝びや〳〵。……へい只今開けます。……佐助どん、お前そんな顔して前へ出てたらいかん。もつとうしろへ坐つて、顔かくしてや……へエへエ……オイ開けるで。(ガラ〳〵〳〵)」

「へエお歸り。」

「ヒエ、お歸えりヒ……。」

「お歸えり遊ばへ……。」

「お、派手なお出迎へぢや。藤助。何でしやちこ張つてるのぢや、……背中へ燭臺入れて腐る。源助、股倉から鍋が覗いてるぞ。」

「それ見いな。誰やこんな物入れるのん……え、此頃冷えて困りますので、こうして暖めとりますの